

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																																
国際メディカル専門学校	平成14年1月9日	白倉政典	〒950-0914 新潟市中央区紫竹山6丁目4番12号 (電話) 025-255-1511																																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																																
学校法人国際総合学園	昭和32年10月10日	池田祥護	〒951-8063 新潟市中央区古町通二番町541 (電話) 025-210-8565																																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																															
医療	医療専門課程	鍼灸学科	平成19年2月22日 文部科学省告示第二十号	—																																															
学科の目的	古来より伝統医学は継承と発展を続け、現代では鍼麻酔の効用やWHOによる適応疾患の認定によって伝統医学を科学的に解明していこうという気運が高まっている。伝統医学の中でも鍼灸は、現在伝統的な治療での有効性に加え科学的論拠に基づいた治療範囲が広がりつつある。その中で、鍼灸を用いてスポーツ・美容・高齢者医療については特に広まりつつある。鍼灸師は、局所や全身の診察を行い整形外科疾患に限らず全身の診察治療を行える国家資格である。本学では、伝統医学のもつ有効性に加えスポーツ・美容・高齢者医療等幅の広い範囲を学び、医療技術者として様々な分野で適応でき、伝統を継承し発展させる人材を育成する。																																																		
認定年月日	平成28年2月19日																																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																												
3年	昼間	2695	1575	90	40	0	900																																												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																														
90人	40人	0人	6人	13人	19人																																														
学期制度	■前期：4月1日～9月14日 ■後期：9月15日～3月31日		成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 期末の試験、出席率等による																																															
長期休み	■学年始：4月上旬 ■夏季：7月下旬から8月下旬 ■冬季：12月下旬から1月下旬 ■学年末：3月中旬から4月上旬		卒業・進級条件	学科カリキュラムに規定する卒業に必要な単位をすべて修得すること																																															
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 個人ガイダンス、基礎力向上補習等		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア、地域貢献活動、町おこし活動への参加 ■サークル活動：有																																															
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等 鍼灸治療院 ■就職指導内容 就職ガイダンスの実施、面接指導、履歴書指導 ■卒業生数 3 人 ■就職希望者数 0 人 ■就職者数： 0 人 ■就職率： - % ■卒業者に占める就職者の割合： 0 % ■その他 ・聴講生：3人 (平成31年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>はり師(R1年度)</td><td>②</td><td>3人</td><td>0人</td></tr> <tr><td>きゅう師(R1年度)</td><td>②</td><td>3人</td><td>0人</td></tr> <tr><td>はり師(H30年度)</td><td>②</td><td>13人</td><td>12人</td></tr> <tr><td>きゅう師(H30年度)</td><td>②</td><td>13人</td><td>13人</td></tr> <tr><td>はり師(H29年度)</td><td>②</td><td>9人</td><td>6人</td></tr> <tr><td>きゅう師(H29年度)</td><td>②</td><td>9人</td><td>7人</td></tr> <tr><td>はり師(H28年度)</td><td>②</td><td>9人</td><td>8人</td></tr> <tr><td>きゅう師(H28年度)</td><td>②</td><td>9人</td><td>6人</td></tr> <tr><td>はり師(H27年度)</td><td>②</td><td>12人</td><td>12人</td></tr> <tr><td>きゅう師(H27年度)</td><td>②</td><td>12人</td><td>12人</td></tr> </tbody> </table> 過去5年実績 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記載 平成18年度～令和1年度はり師・きゅう師合格平均実績：89%(全国平均75%)				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	はり師(R1年度)	②	3人	0人	きゅう師(R1年度)	②	3人	0人	はり師(H30年度)	②	13人	12人	きゅう師(H30年度)	②	13人	13人	はり師(H29年度)	②	9人	6人	きゅう師(H29年度)	②	9人	7人	はり師(H28年度)	②	9人	8人	きゅう師(H28年度)	②	9人	6人	はり師(H27年度)	②	12人	12人	きゅう師(H27年度)	②	12人	12人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																																
はり師(R1年度)	②	3人	0人																																																
きゅう師(R1年度)	②	3人	0人																																																
はり師(H30年度)	②	13人	12人																																																
きゅう師(H30年度)	②	13人	13人																																																
はり師(H29年度)	②	9人	6人																																																
きゅう師(H29年度)	②	9人	7人																																																
はり師(H28年度)	②	9人	8人																																																
きゅう師(H28年度)	②	9人	6人																																																
はり師(H27年度)	②	12人	12人																																																
きゅう師(H27年度)	②	12人	12人																																																
中途退学の現状	■中途退学者 0名 平成31年4月1日時点において、在学者26名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者26名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 校全体、学科単位での動気付け、個別ガイダンスの実施、スクールライフアンケート		■中退率 0%																																																
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 ※有の場合、制度内容を記入 NSGカレッジリーグ無利子奨学制度、NSGカレッジリーグ災害奨学制度(有利子)、ICM特待生制度 ■専門実践教育訓練給付：給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 対象者 2020年度 3学年1名 2学年1名 1学年4名																																																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																																		
当該学科のホームページURL	http://www.icm-net.jp/course/practitioner/																																																		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
- ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
- ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

- ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

鍼灸学科では病院・治療院・スポーツ・美容等々いずれの職場においても活躍できる鍼灸師の育成を目指している。現在の鍼灸師を取り巻く環境では患者とのコミュニケーション、病気に関する知識、伝統医学に関する知識と技術、コンピュータに関する技能が不可欠である。本学科ではこれらに必要な知識を学べるようカリキュラムを編成している。また、学んだ知識・技術をもとに医療現場での実際の業務を体験しながら、必要な知識の定着を図るとともに現場実践での新たな気づきから、目標とする人材像への今後のアプローチを図る上でのモチベーションを高めるよう実習をカリキュラムに取り入れている。時代の変化に即し、より専門的な能力を育成するため、教育課程の編成において鍼灸業団体・治療院等との密接な連携により、より実践的な職業教育の質の確保に取り組む。そのため、専門分野に関する医療業界全体の動向、鍼灸に関する知識と技能を有する関係者から構成される委員会を組織し、意見を聴き、教育課程の編成の参考とする。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は本校の教務部のもとにおく。学科の教育課程の編成にあたっては教育課程編成委員会の意見を活用する。委員会の議長は本校教務部長等教育課程編成の責任者とする。委員は医療業界全体の動向に関する知見を有する者または専攻分野に関する学会や学術機関等の有識者および実務に関する知識、技術、技能についての知見を有する医療機関や関係施設の役職員を含むものとする。現状の教育課程の内容を認識し、関係する業界動向、最新の知識、機材、手法等と併せて、改善が必要とされる課題を抽出し、改善を要する科目案（既存科目でも盛り込むべき内容の精査）を作成する。学科は科目案に基づき翌年度カリキュラムを検討し、学校長の許可を得てカリキュラムの変更または既存科目への教育内容の反映を行う。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
花澤知弘	新潟県鍼灸マッサージ師会	令和元年6月1日～令和3年5月30日（2年）	①
中澤義則	新潟県鍼灸師会	令和2年4月1日～令和4年3月31日（2年）	①
近 千明	ちあき鍼灸室	令和2年4月1日～令和4年3月31日（2年）	③
白倉政典	国際メディカル専門学校（学内委員）		
佐藤秀幸	国際メディカル専門学校（学内委員）		
岩村英明	国際メディカル専門学校（学内委員）		
大槻健吾	国際メディカル専門学校（学内委員）		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回（9月、3月）

(開催日時(実績))

第12回 令和1年9月18日 18:00～19:30

第13回 令和2年3月25日 18:00～19:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

編成委員のご意見を頂き、教育課程・学科運営に反映させた。具体的内容は以下の通り。

【科目：臨床実習前実技】について…今までの臨床実習監査に加え、段階的な学生の成長過程を見ていただく目的で、2年次の臨床実習前実技でも編成委員、学部企業関係者に学生の実習状況を評価いただくことにした。その際の評価・意見は学生へフィードバックし、臨床能力の向上に役立てていく。

【科目：業界教養】について…鍼灸業界や県内動向について下位学年から情報に触れる機会を持たせたほうがよいとの意見から、これまで国家試験受験後の3年生を対象に行っていた各業団体の活動内容のプレゼンテーションを、次年度（2020年度）より1年次科目である業界教養の中で行うこととした。1年生の内から県内にある業団体について知ってもらい、業団体主催の各種勉強会への積極的な参加を促していく。

【学科運営と学生指導について】…鍼灸学科が掲げる3つのポリシー（アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）について、学生には「知識・技術がしっかりして自分から行動できる」、「他業種の医療従事者や患者に対し専門用語をわかりやすく伝える」、「自分なりの志を持ち向上心を持ち続ける」などの能力が備わっていることが望ましいという意見を頂き、それらを踏まえた内容に今後変更していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

病院や治療院等の求める人材育成要請を十分活かし、鍼灸師にとって必要な実践的・専門的な能力を育成するため、実習において病院や治療院等との密接な連携を通じ、実践的な職業教育の質の確保に努める。実習に当たっては、学校で学んだ知識をもとに現場実践的な専門知識・技術、社会人としてのマナー、社会性を身につけること、鍼灸師としての職業観を得ることを主たる目標に置く。目指す分野で求められる能力と自己の現在の能力との差を知るなど、自己分析を通して目標とする人材像に近づくよう学習モチベーションを高め、今後の学修に活かす。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
本学科と業界団体・治療院等が協定書を締結し、校内で実施される実習について、学生の指導や学修成果の評価等に関して連携体制をとる。学生の実習に際して、業界団体・治療院等と事前に学習内容についての打合せを行い、実習で学ぶ目標を明確にした上で実習を行う。実習終了時には、各々の振り返りを通して目標の達成状況の確認をするとともに業界団体・治療院等の指導者より学修の成果を評価してもらう。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習	<p>実際の患者様の施術を通して今まで学習してきた全ての知識や技術の総まとめを行う。それらを発展させ臨床的なテクニックや技術を学びとる。</p> <p>ここでは、ティーチングではなくコーチングとして学生が主体的に学ぶことを主とする。「学ぶ」の原点は、「真似ぶ」であり、術者をまずは観察してそれを模倣し、少しずつ自分のものへと変えていく。</p>	<p>ちあき鍼灸室、一鍼一灸堂 大塚鍼灸治療院</p>

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

本校では就業規則の教育規程にもとづき別途定める研修規定により、教職員に対して専門的な知識技能に関する教育他、一般的な知識、情操に関する教育等を行うこととしている。そのため、法人本部、学校内および外部機関との連携の下、職業に関連した実務に関連した知識、技術および技能ならびに授業および学生に対する指導力等の修得・向上のための組織的な研修機会を確保する。本学科でははり師きゅう師として現場で即戦力として活躍できる人材育成を目指し、臨床能力向上及び最新研究の情報収集を目的とした研修等を受講している。また学生の動機づけ、授業スキルの向上、学校トラブル対応など教員として必要な指導能力を身につけるための研修等も受講している。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「第68回 公益社団法人 全日本鍼灸学会学術大会」（連携企業等：（公社）全日本鍼灸学会）

期間：令和1年5月10日（金）～12日（日） 対象：専任教員2名

内容：「女性のミカタ」をテーマに様々な婦人科疾患に関する発表

研修名「新潟県鍼灸師会夏期講習（ランニングと鍼灸）」（連携企業等：（公社）新潟県鍼灸師会）

期間：令和1年5月26日（日） 対象：専任教員1名

内容：スポーツ現場の現状と必要な知識、またスポーツ現場で使えるパフォーマンスを上げる技術について

研修名「第2回 四団体合同セミナー（即実践！すぐ実感の経絡ストレッチ）」（連携企業等：四団体（（一社）全国鍼灸マッサージ協会新潟支部、（一社）新潟県鍼灸マッサージ師会、（公社）新潟県鍼灸師会、（一社）新潟鍼灸手技療法協会）

期間：令和1年6月30日（日） 対象：専任教員1名

内容：経絡ストレッチを活用した身体診察の仕方や治療の仕方などについて

研修名「第14回鍼灸学校教員のための古典講座」（連携企業等：北里大学東洋医学総合研究所）

期間：令和1年8月17日（土） 対象：専任教員1名

内容：鍼灸に関する中国や日本の古典について

研修名「鍼灸師のための周産期ケア基礎講座」（連携企業等：（一社）新潟県鍼灸マッサージ師会）

期間：令和1年10月6日（日） 対象：専任教員1名

内容：助産師が鍼灸師に臨むことについて、妊婦から治療院予約の電話がかかって来た時の対応や触察の仕方について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「新任教員フォローアップ研修」（連携企業等：NSGグループ人財開発部）

期間：令和1年7月25日（木） 対象：専任教員4名

内容：学生指導や育成を目的としたインタアクション（コミュニケーション）や、学生と信頼関係を築き、意欲を引き出すためのスキルについて

研修名「G-3研修（～問題解決～）」（連携企業等：NSGグループ人財開発部）

期間：令和1年8月28日（水） 対象：専任教員1名

内容：問題の発見を重視し、更に具体的な解決策の導き方までを論理的な思考モデルについて

研修名「授業満足度90%超えを実現する方法」（連携企業等：（一社）全国専門学校教育研究会）

期間：令和2年2月17日（月）～18日（火） 対象：専任教員1名

内容：授業の導入部分でいかに学生の心を掴み、その後の授業展開にどのように繋げていくのかについて

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ICCO式美顔はり」（連携企業等：（公社）新潟県鍼灸師会）

期間：令和2年8月23日（日） 対象：専任教員1名

内容：「ICCO式美顔はり」の理論と技術についてのセミナー

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名 教職員研修（連携企業等：（一社）全国専門学校教育研究会）

期間：令和3年2月（開催未定） 対象：専任教員1名

内容：未定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校は教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努める。専修学校における学校評価ガイドラインを踏まえ、学校が行っている学生意識調査、保護者アンケート、その他の資料に基づく自己評価に対して、学校関係者評価委員会から毎年度末に評価を受ける「学校関係者評価」を実施し、その結果を公表するとともに、その結果を踏まえた学校の改善に取り組む。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

2019年度学校関係者評価委員会は2020年3月開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の情勢を鑑み、年度を跨ぎ5月に延期とし、さらにWeb会議形式での実施とした。学校関係者評価委員会の評価結果をホームページ上公表するとともに、委員会での指摘事項をさらに翌年度以降の学校運営で改善を図っている。従来からの学費負担軽減に関する意見を受け、将来のよりよい医療人の輩出を図るため意欲のある社会人に向けて専門実践教育訓練給付金指定講座の告知強化に努め、現在給付金を受けている約40人の社会人入学者が在籍している。養成施設である学科が多いため、委員からは教育理念の実現のために、常に国家資格、検定等の高い合格率を維持することを使命として追求することを求められている。2020年度は十分な分析と検討を重ね、全学科全学生の合格を期して計画を練り実践していく。2020年度はコロナウイルス感染情勢による経済的困窮な学生の受け入れ、外部実習や就職等への影響など様々な面に対処が求められる。委員からは、『学生の生活環境への支援』に関する迅速な対応についても意見を受けた。2019年度に申請し、新年度より適用となる新修学支援制度や、国のコロナ対策施策としての奨学金制度などを広く広報・活用し、学生（入学生を含む）が学びを継続できる体制を整えていく。「社会貢献・地域貢献」の取り組みとしてテクノスクールの委託事業（医療事務講座）を開講し、2017～2019年度（受講者：12名、12名、15名）に3年連続で採択を受け、2020年度の委託も決定している。受講者の終了アンケートでは満足度の高い講座であったことが伺えるため、社会貢献活動の一環として継続していく。校友会活動を活発にしてほしいという期待を受け、2019年度には校友会ホームページの改修を行った。OBへの情報発信の中に、実習先病院へのUターン就職等の情報などを提供し、卒後の就職フォロー等卒業生との繋がりや支援の方法を工夫していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
野水宏一	医療法人社団真仁会 南部郷厚生病院 事務部長	令和2年4月1日～令和4年3月31日（2年）	企業等委員
田村泰生	医療法人愛広会 人事部長	令和2年4月1日～令和4年3月31日（2年）	企業等委員
仲野隆一	社会福祉法人 愛宕福祉会 人事部長	令和2年4月1日～令和4年3月31日（2年）	企業等委員
佐藤桜子	国際メディカル専門学校 校友会会長	令和2年4月1日～令和4年3月31日（2年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ())

URL: https://www.icm-net.jp/common2008/pdf/2020/R1_hyouka02.pdf?2

公表時期：令和2年7月

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校は病院等医療機関の求める人材育成要請を十分活かし、医療職者にとって必要な実践的・専門的な能力を育成するため、病院等医療機関との密接な連携及び協力が必要不可欠である。そのため、学校概要や教育活動等専門学校における情報提供等への取組に関するガイドラインを踏まえた情報を提供をすることで、より連携が強くなるものと期待する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科等の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 様々な教育活動
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL: <http://www.icm-net.jp/> のトップ画面下段にある情報公開 (<http://www.icm-net.jp/publicinfo/>) 内で基本的な学校情報を提供。他、上記設定項目に該当する内容はホームページトップおよびリンク画面にて提供している。

授業科目等の概要

(医療専門課程鍼灸学科昼間部) 2020年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			心理学	人間の行動を理解する上で、重要な心の動きについて学習する。鍼灸の臨床でも増えている心身症・神経症などの疾患にも対応できるよう、カウンセリングの基本を学び、各自のパーソナリティーを出せる医療面接をおこない、人間の心の動きを基に適切なコミュニケーションがとれるようにする。	2 後	30	2	○			○			○		
○			マーケティング	治療院を開業・運営するために、基礎的な事業計画の作成・市場調査・税務手続き・資金調達・資金運用・法務等々を学ぶ。卒業後すぐに、独立開業を目指し、基礎的な運営術を学ぶ。	2 前	30	2	○			○				○	
○			英語	既に学んだ伝統医学基礎用語と解剖・生理学・診察の用語を英語で学びなおしながら、その部位・機能を忘れていないか確認しながら学習する。読解や会話の例文を用いて、より実践的な学習を行う。	2 通	30	2	○			○				○	
○			中国語	中国語の基礎から学び、他授業でも中国語が必要となるため最低限の基礎を学習する。あくまで伝統医学のエキスパートとして必要な中国語能力を学ぶ。基礎能力を身に付けることで、会話についても自習が進められる基盤を作る。	1 通	30	2	○			○				○	
○			スタディスキルズ	人間はどのように学び、発達していくのかを学習する。その中で、医学教育の基礎として認知心理学を学び「学習する方法」を学び今後専門の学習を進めるにあたり各自に適した学習方法を模索する。患者教育という点も踏まえて、学習のメカニズム等について学ぶ。	1 前	15	1	○			○				○	
○			コミュニケーション技法	医療人として、社会人としての基本的なマナーを身につける。接遇方法を学び、より良い社会人、より良い医療人を目指す。	1 前	30	2	○			○				○	
○			情報処理 I	Word・Excelを学び最低限の情報処理能力を身に付ける。また、この情報処理能力を身に付けたうえで、今後の各教科のレポート作成を行うスキルを身に付ける。	1 前	30	2	○			○				○	
○			情報処理 II	PowerPointの使い方とネットワーク上から鍼灸関連の情報を自由に収集できるようにする。	1 前	15	1	○			○				○	

○		解剖学Ⅰ	<p>人体の仕組みと成り立ちを学習し、個々の仕組みを理解しそれぞれの関連性を系統的に学び、専門医学学習上の基礎を築く。まとめて、解剖実習を行い標本にて確認する。鍼灸臨床の中で解剖学は、基礎の分野でも重要な位置を占める。解剖学の知識が乏しければ、経絡経穴・鍼灸実技・手技療法等々全ての科目の学習がむずかしくなる。この点を踏まえて各部の名称と機能を学習し今後の学習のための基礎を作る。</p> <p>解剖学Ⅰでは神経・脳神経・循環器等について学ぶ。</p>	1通	45	3	○	○	○						
○		解剖学Ⅱ	<p>人体の仕組みと成り立ちを学習し、個々の仕組みを理解しそれぞれの関連性を系統的に学び、専門医学学習上の基礎を築く。まとめて、解剖実習を行い標本にて確認する。鍼灸臨床の中で解剖学は、基礎の分野でも重要な位置を占める。解剖学の知識が乏しければ、経絡経穴・鍼灸実技・手技療法等々全ての科目の学習がむずかしくなる。この点を踏まえて各部の名称と機能を学習し今後の学習のための基礎を作る。</p> <p>解剖学Ⅱでは、消化器・呼吸器・内分泌器・感覚器・生殖器・泌尿器等について学ぶ。</p>	1前	45	3	○	○	○						
○		解剖学Ⅲ	<p>人体の仕組みと成り立ちを学習し、個々の仕組みを理解しそれぞれの関連性を系統的に学び、専門医学学習上の基礎を築く。まとめて、解剖実習を行い標本にて確認する。</p> <p>鍼灸臨床の中で解剖学は、基礎の分野でも重要な位置を占める。解剖学の知識が乏しければ、経絡経穴・鍼灸実技・手技療法等々全ての科目の学習がむずかしくなる。この点を踏まえて各部の名称と機能を学習し今後の学習のための基礎を作る。</p> <p>解剖学Ⅲでは、解剖学基礎・骨格系・筋系・（局所解剖）等について学ぶ。</p>	1通	60	4	○	○	○						
○		生理学Ⅰ	<p>生物が示す生命現象を理解し、様々な生命現象が協調と統制によって人体生活動が維持されていることを理解する。特に、生理学を学んだ後に病態生理・臨床医学各論とつながるように暗記に頼らず理解をして、最終目標である鍼灸臨床で患者に説明できるような活用できる知識を習得する。</p> <p>生理学Ⅰでは、基礎、循環、呼吸、消化と吸収、排泄、内分泌等について学ぶ。</p>	1通	60	4	○	○	○						
○		生理学Ⅱ	<p>生物が示す生命現象を理解し、様々な生命現象が協調と統制によって人体生活動が維持されていることを理解する。特に、生理学を学んだ後に病態生理・臨床医学各論とつながるように暗記に頼らず理解をして、最終目標である鍼灸臨床で患者に説明できるような活用できる知識を習得する。</p> <p>生理学Ⅱでは、神経、筋、運動、感覚、体温、栄養と代謝、生殖・生長老化、生体防御、ホメオスタシスと生体リズム等について学ぶ。</p>	1後	60	4	○	○	○						
○		解剖生理Ⅰ	<p>1年次に学習した解剖学Ⅰと生理学Ⅰのまとめと統合を行う。それぞれ異なる学問体系学習した後、同一分野での解剖と生理の統合を行い、病態把握等より臨床での鑑別能力の基礎とする。</p>	2通	45	3	○	○	○						

○		解剖生理Ⅱ	1年次に学習した解剖学Ⅱと生理学Ⅱのまとめと統合を行う。それぞれ異なる学問体系学習した後、同一分野での解剖と生理の統合を行い、病態把握等より臨床での鑑別能力の基礎とする。	2通	45	3	○		○	○		
○		運動学	運動障害をもつ患者を診て治療を行うためには、人間の運動機能と構造についての基本的な知識を備えていなければならない。正常運動を基準値として、障害の度合いを正確に分析した結果をもとにして治療が展開される。運動学として、人体がどう機能し、動くかを学ぶ。	2後	30	2	○		○	○		
○		病理学概論	病因と病変を理解し、疾患の病態把握の基礎を作る。ここでは、病理学総論を中心として学習する。病理学各論は、病態生理・臨床医学各論の中で学習していく。	2前	30	2	○		○	○		
○		臨床医学総論	現代医学的視点で、臨床に必要な診察法と治療に関する知識を学習し、疾病の治療にあたってその病態の判断と迅速かつ適切な処置を学習する。	2通	60	4	○		○	○		
○		臨床医学各論Ⅰ	臨床各科の代表的な疾患を学び、これまで学習してきた西洋医学的基礎に基づき疾患を鑑別し病態を理解する。臨床医学各論Ⅰでは感染・消化管・肝胆膵・呼吸について学ぶ。	2後	45	3	○		○	○		
○		臨床医学各論Ⅱ	臨床各科の代表的な疾患を学び、これまで学習してきた西洋医学的基礎に基づき疾患を鑑別し病態を理解する。臨床医学各論Ⅱでは腎泌尿・内分泌・代謝・整形外科・循環について学ぶ。	3前	60	4	○		○	○		
○		臨床医学各論Ⅲ	臨床各科の代表的な疾患を学び、これまで学習してきた西洋医学的基礎に基づき疾患を鑑別し病態を理解する。臨床医学各論Ⅲでは神経・血液・リウマチ・その他について学ぶ。	3後	60	4	○		○	○		
○		リハビリテーション医学	病院内での鍼灸臨床において、リハビリテーションとの連携が頻繁となってきた。リハビリテーションの概念から学び、将来病院臨床で理学療法士と連携をとれるよう患者へのアプローチの仕方を学ぶ。	2通	60	4	○		○	○		
○		公衆衛生学	公衆衛生学の概論を学ぶ。最新のデータに基づき、医療技術者として知っておくべき基礎的な教養を学習する。	1後	30	2	○		○	○		

○		鍼灸理論Ⅱ	なぜ鍼灸での治療効果があり、どのようなメカニズムでその治療効果があるのか学習する。また、臨床で患者さんに質問された際、平易な言葉でそのメカニズムや論拠を説明できるようにする。	2 前	45	3	○		○	○			
○		体表観察	1年次で学習した解剖学Ⅱに基づいて、体表より触診することができるランドマークの実技学習を行う。また、解剖学的ランドマークの確認以外に、経穴の確認なども行う。	2 通	30	1			○	○		○	
○		症例検討	鍼灸の臨床は、様々な経験に裏付けられた医術でもある。過去の症例から、良い面だけでなく、反省点も含めて学ぶ。演習科目であるため、症例を各自で読み込み、その背景を分析し、発表する形式で行う。	3 後	30	1		○		○		○	
○		伝統医学臨床論	伝統医学概論で学んで基礎知識と診断術を基に、各論を学習する。中国の教育での「鍼灸治療学」で、日本の臨床の中で多い疾患を学習する。	3 前	60	4	○			○		○	
○		文献閲読	現代中国文献を中心として閲読をおこなう。伝統医学的な基礎ができつつあるところで、その知識を活かして文献を読めるように進める。また、中国文献のみならず日本古典の一部閲読も行う。	2 前	15	1	○			○			○
○		鍼灸業界教養	自分が属する鍼灸学校や鍼灸の教育制度、最低限の法規、世界の現状、学会の現状を客観的に学習し科学的に評価する。	1 後	15	1	○			○		○	
○		伝統医学史	基礎的な鍼灸の歴史を学び、各専門科目を学んだところで、各流派の歴史や特徴を学ぶ。それぞれの流派により、その時代背景や主体となる考えや治療法を学び、先人たちの叡智に触れる。	3 前	15	1	○			○		○	
○		就職実務	2年次就職活動に向けて学習する。 ①履歴書の書き方・御礼状の書き方 ②アポイントの取り方 ③面接時のチェック項目 ④求人票の見かた 等々	2 後	15	1	○			○		○	
○		医学補完Ⅰ	医療関係以外に、医療に従事するうえで必要な知識・技術を学ぶ。また、1年次の進捗に合わせて、必要な知識・技術を習得する。	1 通	30	2	○			○		○	
○		医学補完Ⅱ	医療関係以外に、医療に従事するうえで必要な知識・技術を学ぶ。また、2年次の進捗に合わせて、必要な知識・技術を習得する。	2 通	15	1	○			○		○	
○		医学補完Ⅲ	医療関係以外に、医療に従事するうえで必要な知識・技術を学ぶ。また、3年次の進捗に合わせて、必要な知識・技術を習得する。	3 通	15	1	○			○		○	

○		対策授業 I	3年次における国家試験対策を主とする。全科目を横断的に学習し、3学年に渡る学習の総まとめとする。 対策授業 I では1、2年次に行った科目の総まとめを行う。	3 前	60	4	○		○	○								
○		対策授業 I	3年次における国家試験対策を主とする。全科目を横断的に学習し、3学年に渡る学習の総まとめとする。 対策授業 I では1、2年次に行った科目に加え、3年次に行った科目の総まとめも行う。	3 後	75	5	○		○	○								
○		総合実技	総合領域として、鍼灸以外にも必要な知識や技術を学ぶ。鍼灸師として必要な、知力・体力・徳力を養う。	3 通	30	1			○	○		○						
○		総合医学演習	3年間学んできた、知識の統合と演習を行う。演習科目の為、知識の確認と修正を中心とする。	3 後	30	1		○		○		○						
○		鍼灸実技 I	主に毫鍼・ひねり艾を中心として鍼灸の基礎的な実技を行う。 鍼灸実技 I では、消毒衛生概念の学習から四肢を中心とした代表穴への施術を行い、1年次終了時には大凡毫鍼では自分の思った角度や方向に打てるようにする。	1 通	15 0	5				○	○		○					
○		鍼灸実技 II	主に毫鍼・ひねり艾を中心として鍼灸の基礎的な実技を行う。 鍼灸実技 II では、顔面・体幹部等危険部位での施術を安全に行えるようにする。またパルス刺鍼や灸頭鍼も行う。	2 通	15 0	5				○	○		○					
○		経絡経穴実技 I	経絡経穴概論の学習と合わせながら、その部位の確認を行う。特に、解剖学で学習人体のランドマーク部位を具体的に触れながら取穴位置の確認を行う。 経絡経穴実技 I では十四経脈の取穴を行う。	1 通	30	1				○	○						○	
○		経絡経穴実技 II	経絡経穴概論の学習と合わせながら、その部位の確認を行う。特に、解剖学で学習人体のランドマーク部位を具体的に触れながら取穴位置の確認を行う。 経絡経穴実技 II では奇経・経筋・経外奇穴・臨床常用穴の取穴を行う。	2 通	30	1				○	○		○					
○		手技実技 I	施術する際の基本的な身体の触れ方や筋肉や取穴等々について徒手手技を通して学習する。またここでの学習を通して手技施術の指をトレーニングしていく。 手技実技 I では指圧・あん摩・マッサージ基礎を行う。	1 後	30	1				○	○		○					

○		手技実技Ⅱ	施術する際の基本的な身体の触れ方や筋肉や取穴等々について徒手手技を通して学習する。またここでの学習を通して手技施術の指をトレーニングしていく。 手技実技Ⅱでは指圧・あん摩・マッサージ応用を行う。	2 後	30	1				○	○	○		
○		美容スポーツ各種 鍼灸	鍼灸実技ⅠⅡで行わない様々な鍼灸関連技術について学ぶ 鍔鍼等皮膚鍼・刺絡療法・吸角療法・美容鍼・打鍼・物理温熱療法・スポーツ関連疾患に対する治療等々	3 後	60	2				○	○	○		
○		現代鍼灸検査実技	現代鍼灸領域に対する、施術を行うため、徒手検査を中心とした診察術を学ぶ。症例ごとに異なる必要な検査を適宜行い、現代医学的な病態の把握を行う。	2 後	30	1				○	○	○		
○		伝統鍼灸診察実技	伝統鍼灸領域に対する、望・聞・問・切を中心とした診察術を学ぶ。型として、施術の流れを行い、問診では必要な情報をこちらから引き出せる能力を身につけ、伝統医学的な弁証論治を行い、処方が行えるようにする。	2 後	30	2				○	○	○		
○		臨床実習前実技	1年次より2年次にかけて、基礎的な知識と技術、具体的な臨床能力の統合を行い、臨床実習の前に客観的臨床試験能力を習熟する。 最終評価として、OSCE (Objective structure Clinical Examination) を実施する。	2 後	30	1				○	○	○		
○		臨床基礎実習Ⅰ	臨床実習を行う前に、治療院の準備や運営、施術の流れ、施術後の道具の処理などを学ぶ。 臨床基礎実習Ⅰでは治療院の実際の現場で、施術を行う前の準備から、施術後の片付け等々施術者がやらなければならない内容を見学し、実践を行う。	1 通	45	1				○	○	○		
○		臨床基礎実習Ⅱ	臨床実習を行う前に、治療院の準備や運営、施術の流れ、施術後の道具の処理などを学ぶ。 臨床基礎実習Ⅱでは患者対応や接遇を臨床現場で学ぶ。	2 通	45	1				○	○	○		
○		臨床実習	校内の附属臨床施設を使用して行う。実際の患者様の施術を通して今まで学習してきた全ての知識や技術の総まとめを行う。臨床基礎実習ⅠⅡを通して、臨床の前段階を踏まえて、今まで学習してきたものの実践を行う。ここでは、ティーチングではなくコーチングとして学生が主体的に学ぶことを主とする。「学ぶ」の原点は、「真似ぶ」であり、術者を先ずは観察してそれを模倣し、少しずつ自分のものへと変えていく。	3 通	90	2				○	○	○	○	○

○	独立開業特論	卒業後の独立開業に向けて実際の現場を体験しながら具体的なイメージをつくる。独立開業に向けて準備すべき必要な事項についてを知る。(独立開業特論・美容業界特論・スポーツ業界特論のうち1科目を選択受講)	2後	40	2			○	○	○	○
○	美容業界特論	美容業界の現状を学び、将来取得する鍼灸の世界と合わせて美容鍼灸を展開できるように見地を深める。美容業界の常識や美容器具について学び将来へのモチベーションを高める。(独立開業特論・美容業界特論・スポーツ業界特論のうち1科目を選択受講)	2後	40	2			○	○	○	○
○	スポーツ業界特論	スポーツ業界で働くトレーナーの仕事を見学し、実技講習やトレーナーに必要なスキルを身につける。解剖学、運動学、基礎実技が応用的な施術にどのように活かされるかを知る。(独立開業特論・美容業界特論・スポーツ業界特論のうち1科目を選択受講)	2後	40	2			○	○	○	○
合計			65科目	2695単位時間(141単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
カリキュラムに規定する卒業に必要な単位をすべて修得すること。各科目試験において成績評価が「C」評価以上の評価を得ていること。各科目の授業時間数の3分の2以上の出席がされていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。